

# 2024年度 J A東京カップ 第36回 東京都U-11サッカー 11ブロック大会

## <大会趣旨>

少年サッカーの育成と発展を目指し、特に5年生期における技術、戦術、マナー、そしてサッカーのゲームを楽しむ、愛する心を育てる。

8人制の試合をすることにより、「判断」へのアプローチ場面を多くし、いろいろなポジションを経験しながら個々の技術の質を高める。

選手育成を第一と考え、多くの選手に試合経験を与えることとする。

- \* 主催 (公財) 東京都サッカー協会 東京都少年サッカー連盟
- \* 共催 東京新聞 ・ 東京中日スポーツ
- \* 主管 東京都少年サッカー連盟
- \* 後援 東京都信用農業協同組合連合会  
全国農業協同組合連合会 東京都本部  
全国共済農業協同組合連合会 東京都本部
- \* 協力 稲城市サッカー連盟

## 11ブロック大会要項細則

### 1、期 日

2024年6月29日(土)～2024年9月23日(日) 予備日10/5, 10/20 ブロック推薦締切 11/11(月)

### 2、会場

町田市小野路G、町田市丘の上G、町田市本町田後田G、稲城長峰VF、稲城市南多摩G

各試合会場は選手と指導者及び大会関係者のみが入場できる「試合会場」と、それらに加え応援・観戦者が入場できる「管理区域」に分けられる。

### 3、参加資格

- (1) 2024・連盟大会要項「中央大会・ブロック大会共通事項」に準じる。
- (2) 2013年4月2日～2014年4月1日に生年月日が属する小学校5年生主体で編成されたチーム。  
ただし4年生以下の選手を含める場合は選手の健康・体格・体力・技能等を十分に考慮しチームの責任において出場させること。
- (3) 複数チームエントリーおよび選手の組み替えについては、2024・連盟大会要項『複数チームエントリー規定』および『大会毎の複数チームエントリー細則』に準じる。  
(5年生のみで3人以上の登録が必要。2チームとも下級生の登録をすることはできない)
- (4) 参加チームは大会実施年度に日本サッカー協会(以下本協会)第4種に加盟(または準加盟)したチームであること。参加チームは年間を通して活動している単一加盟チームに限られる。
- (5) グラウンド提供から会場運営・準備・後片付けなど、大会運営に協力できるチームであること。  
例として会場提供チームの指示で、第1試合の両チームが会場作りを、最終試合の両チームが後片付けを担当する事が原則だが、会場により最初の2試合と最終2試合のチームで行う必要や、メジャー・ブラシやバケツ等の持参を要請する場合もあるので、会場責任者の指示に当日参加の全チームは協力すること。
- (6) 所属選手はJFAの選手証を試合に持参(顔写真のある個別または一覧の印字された選手証が必要)すること。  
※追加選手はJFAに登録申請し承認後顔写真を登録し、選手証を印刷して大会に登録・出場できる。  
※大会前の事前承認は不要。

#### 4、引率指導者及び登録用紙 2024・東京都少年連盟大会要項「参加資格について」に準じる。

##### a, 公認指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の指導者のみがベンチ入り出来る。

前年度まで採用したJFAIDでのベンチ入りは不可とする。3人～5人目の内1名は、指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてのベンチ入りは可能。2人の内1名がメディカルは不可。

##### b, 指導者資格保有者は【指導者証】を、メディカルスタッフは別途定めた【メディカル証】を作成して、それぞれ透明な首掛け式カードケースに入れて会場では常時掲示しなければならない。

##### c, 指導者資格保持者は指導者証を掲示してベンチ入りし、メディカルとしてはベンチ入りはしない。

**メディカルスタッフはメディカルの任務だけを担う成人のみが担当**する。

##### d, ベンチ入り指導者は試合の都度登録用紙兼メンバー表の所定欄に、氏名・指導者証番号・責任順位を記載する。メディカルは氏名のみ記載し、指導者証番号の記載は不要。

##### e, 登録用紙兼メンバー表の指導者の氏名の左の欄には、その試合のベンチ入り全指導者の責任上位順に、①②③④⑤を記載する。メディカルスタッフがいる場合、その氏名の左の欄には「○」のみで良い。また主審が判別しやすいようにベンチの一番ハーフウェーライン寄りには責任上位①位が座る。

##### f, チーム責任者は自チームの最初の試合の30分前までに、必要事項を記載し累積のある選手の累積欄に「✓」もしくは「1」を記載した「登録用紙兼メンバー表」と「web選手証一覧」及び当日ベンチ入りの「指導者証」と必要に応じ「メディカル証」を本部運営担当に提出し確認を受ける。後から参加する選手やスタッフがいない場合、2試合目のチェックではそれぞれのIDは不要で、メンバー表は本部に預けたままでよいが、試合で懲戒を受けた選手がいた場合は懲戒欄に記載して再提出する。

##### g, メンバー表の【移籍】欄には、移籍元のチーム名と移籍完了日を記載する。委員長への報告が必須。

移籍はいつでも可能だが、ブロック大会・中央大会問わず移籍後に同一大会への出場は認められない。

##### h, 試合開始から終了まで、登録用紙兼メンバー表に記載され、指導者資格証等を首掛け式カードケースで掲示の2名以上5名以内のチーム指導者がベンチにいないが、例外として負傷者や前後の試合の審判対応で退席の間、ベンチ指導者が1名になることは認められる。

##### i, テクニカルエリアを設けない会場で戦術指示する場合は、立つ立たないに関わらずその都度1名のみその場で指示することが出来るが、ベンチから離れたら指示することは出来ず注意及び懲戒罰の対象になる。

##### j, メディカルスタッフは戦術的指示はできない。指示が発覚した場合は注意及び懲戒罰の対象となるが、警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、他に競技者の治療等に対応ができる者が不在で、競技者に治療が必要と判断された場合のみ、試合に留まることが出来る。

##### k, ベンチスタッフの不正行為の発覚で主審が個人を特定できなかった場合は、メンバー表に記載された『責任順位番号』の最上位のスタッフに注意及び懲戒罰が命じられる。

##### l, ベンチやその周辺で電子機器や通信機器を使用(撮影含む)は禁止で懲戒罰の対象となる。

撮影は本部が認めた場所からのみ可能とする。(ベンチ裏やゴール裏は不可。管理区域でも同様)

##### m, ベンチスタッフの代表者は、試合終了後主審が記載した「結果報告書」の内容(得点、懲戒の有無)に間違いが無かったら所定の欄に署名する。

#### 5、熱中症対策や感染症対応など期間限定特別ルールを設けた場合

##### a, 感染症対応などの特別ルールを設けた期間は、本大会要項より特別ルールが優先される。

##### b, 熱中症対策は従来通りWBGT計の指数を目安に対応する。感染症対応など特別ルールと相反する状況の際はより生命への危険度が高い熱中症や雷への対策を優先とする。

##### c, 暴風雨や雷などの場合も同様に、生命を守る対応を優先とする。安全、安心第一を全員で共有すること。

#### 6、競技会規定

##### (1) 競技会規則

##### a, 日本協会2023/2024競技規則を基本とする最新のルールを適用する。

##### b, 「8人制サッカー競技規則」に準じるが「東京都少年連盟大会要綱」及び「本大会要項細則」が優先される。

## (2) 競技のフィールド

- a, フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいがクレーでも可（フラットマーカーでの表示可）
- b, フィールドの長さ（タッチライン）は68m、幅（ゴールライン）は50mを基本とし、照度が十分確保されている事。  
FP用交代ゾーンとして、ベンチ側タッチラインの中央から両側に3mの位置に、タッチラインから5cm放して30cmの線もしくはマーカーを示す。ラインの引けない人工芝の場合、大人のゴール設置位置のマーク(3.66m)を交代ゾーンとして利用することも認める。
- c, ペナルティ-エリア等：ペナルティ-エリア12m、ゴールライン～ペナルティ-マ-ク8m、ゴールエリア4m  
ペナルティ-アークの半径7m、センターサークルの半径7m、コーナ-アーク半径1m。
- d, ブロック大会ではテクニカルエリアは設置しない。戦術指示は立つ立たないに関わらず、その都度ベンチのただ1名の指導者のみが行える。ベンチから離れたら指示することは出来ず、注意及び懲戒罰の対象となる。
- e, ハーフタイム時の競技のフィールドでは、次の試合のチームの練習のための利用を認める。

## (3) ボール

- a, 両チーム1個ずつ0.8気圧にした4号公認検定球を、試合開始10分前の用具チェック時に持ち寄る。
- b, 主審は、0.8気圧を基本として、そのボールにおいて適切な値とする。（主審判断）

## (4) 試合形式

- a, 試合は全て8人制(内1人がGK)で、1次グループリーグ戦、勝ち上がりの2次トーナメント戦と双方組み合わせを行い、1位から3位までを中央大会へ推薦する。
- b, 試合は1次グループリーグは30分（15分ハーフ、インターバル5分）で行い、2次トーナメント以降は40分（20分ハーフ、インターバル5分）で行う。アディショナルタイムは表示しない。
- c, 登録選手全員がベンチ入りできる。また、全員が出場できるようにチームで配慮する。
- d, リーグ戦における順位の設定方法 勝3点、分1点、敗0点により、勝点の多い順に決定する。  
なお勝点の合計が同一の場合は、以下の項目に従い順位を決定する。
  - ① 全試合の得失点差（総得点－総失点）
  - ② 全試合の総得点
  - ③ 当該チーム同士の対戦成績（勝敗）
  - ④ ①～③の全項目において2もしくは3チームが同一の場合は、抽選により順位を決める。
- e, 一方のチームの放棄試合などで不戦敗の扱いは、リーグ戦において不戦勝チームは勝点3、得点3、失点0とし、不戦敗チームは勝ち点マイナス1、得点0、失点3とする。
- f, 試合途中で放棄試合(不戦敗)となり、得失点差がその時点で3点より多い場合はそちらを採用する。
- g, **飲水タイム(1分を超えてはならない)やクーリングブレイク(90秒～3分以内)を設けた場合、それらはアディショナルタイムとして扱う。**
- h, GK以外は自由な交代ではあるが、飲水タイムやクーリングブレイク時を含め常に審判の管理下で交代する事。
- i, トーナメント戦で同点の場合、3人ずつのPK戦を行う(決まらない場合はサドンデス方式)

## (5) 競技者 事前承認は不要。試合当日会場にてチェックを受ける。

- a, 登録用紙兼メンバー表に必要事項を記載し、web選手証一覧と共に本部運営に提出し確認を受けた選手が出場出来る。ベンチ入りした時点で出場とみなす。
- b, 移籍はいつでも可能だが、移籍後は同一のブロック大会も中央大会にも出場することは出来ない。  
移籍はブロック委員長への報告を必須とし、登録用紙兼メンバー表の移籍欄に必ず記載する。
- c, 出場停止や用具不備の者は、応援のためだけにベンチ入りする事は認められない。
- d, 試合の都度10分前には指定の場所に全選手が集合し、氏名、背番号、用具のチェックを受ける。これらは時間厳守とする。懲戒を受けた選手がいた場合、その選手の懲戒欄に必要事項を記載して提出する。
- e, 試合は8人の競技者（内1人はゴールキーパー）で行う。試合の都度チームの人数に制限はないので登録選手全員がベンチ入りできる。またベンチ入り全選手が出場できるようにチームで配慮する。
- f, フィールドプレーヤー(FP)は交代ゾーンから自由な交代が出来るが、ゴールキーパー(GK)の交代は主審に通知して試合の停止中に行う。交代で退くGKは、一番近いタッチラインかゴールラインから出なければならず、交代で入場するGKは交代ゾーンから入らなければならない。

- g, 交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用しなければならない。
- h, 一方のチームが8人に満たない場合は試合を開始しない。  
試合が開始出来なかった場合、8人に満たないチームの放棄試合として不戦敗扱いとする。
- l, 試合進行中および終了時、一方のチームがフィールド上に6人未満の場合、試合は不成立で、6人未満のチームの放棄試合となるが、主審の許可を得て、用具を正すまたは負傷の処置で一時的に6人未満の場合はその限りではない。本項は、早期復帰することが条件となる。復帰の見通しがたたない場合は主審の判断で競技を終結させ放棄したチームの不戦敗となる。
- j, 競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームは交代要員の中から補充出来る。主審は補充が完了するまで競技を再開しない。補充せず再開する事も可能だが、6人未満になった時点で試合は打切られる。
- k, 退場処分(1試合の中での警告2枚を含む)及び累積警告2枚となった選手は、次の試合には自動的にベンチ入り含めて出場できない。またその内容によっては規律委員会により追加処分を与える場合がある。
- l, 退場を命じられた選手は会場において指定された場所へ移動するのが原則だが、その時点での精神面・安全面を配慮し指導者の管理の下ベンチに座らせてよいが、他の控え選手とは明確に違う色を着用させる。
- m, 選手は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険等)に加入していること。
- (6) 競技者の用具 ユニフォーム規定への抵触の有無等の確認がある場合は大会前に役員へ照会する。
- a, 日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則るが、11ブロック独自の緩和条項もある。  
※チーム名やチームを示すエンブレムをシャツの前面に表示する。(背面は任意)  
※交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。
- b, 選手番号は規定(背面:縦25cm-35cm、前面:縦10cm-15cm)サイズを適宜縮小することも可。
- c, 番号表示はシャツの背面及び前面に必須とする。ショーツには表示を推奨する。
- d, ユニフォームは正・副持参(同じ番号)する。試合ごとに番号の変更は可能。(11bローカル)  
胸番号と背番号は正しく固定されて明確に表示されなければならない。
- e, ユニフォームのメーカーロゴの違い、モデルチェンジによる微妙なデザイン変化、ソックスのライン数など購入時期の違いでの微妙な色の違い等細部には言及しないが、審判員が通常着用する黒と明確に判別出来ること。黒系・紺系のシャツについては継続利用は可だが新調する際は使用不可となる。
- f, 試合には必ずFPの正副とGKの正副を持参し、用具チェック前に対戦相手と相談の上着用するユニフォームを決める。相談がまとまらなかった場合は審判または本部によるコイントスで正副を決める。
- g, ソックステープ等外部に着用する場合、ソックスと同色でなくてもよくチーム内での統一も不要。  
アンダーシャツ・アンダーショーツ並びにタイツの色は問わないが、チーム内で統一とする。  
GKのアンダーシャツやアンダーショーツはFPと異色でも良いが、サブのGKと同じとする。
- h, リバーシブルユニフォームは規定に準じ且つ健康や衛生面が保たれていれば着用を可とする。
- l, GKのユニフォームにおいてショーツとソックスはFPと同じものでも構わない。
- j, **戦略的理由によるGKの交代(PK戦時も同様)の場合、交代してGKになる選手は自身の背番号の控えGKユニフォームか、試合で使用していない自身の背番号のFPユニフォームを着用して対応することが出来るが、そのユニフォームの色が相手チームと被る又は同系色の場合はGKの交代は出来ない。**
- k, **GKの予期せぬ事態(ケガ・退場等戦術的理由ではなく、控えのGKもいない場合)で、FPがGKに交代する際のユニフォームは、自身の背番号の控えGKユニフォームか、試合で使用していない自身の背番号のFPユニフォームで対応可能だが、相手チームと色が被る又は同系色の場合は、色の被らない無地で背番号の無いシャツか、退くGKが着用していたGKユニフォームを着用して対応する事が出来る。この時FPの元の背番号が退くGKの背番号に変わった事を、審判・運営は記録しなければならない。**
- l, 2人目までのGKユニフォームの正副は同じデザインが基本だがメーカーのモデルチェンジでの多少の違いは問わない。3人目のGKのユニフォームは前の2人と異なるデザイン・色彩でも良いが、シャツ・ショーツ・ソックスは正副を揃え且つFPと区別できる色で、本人固有の番号が表示されていなければならない。

- (7) 審判 競技規則の変更点を確認し、ルールを理解して実践できる審判員であること。
- a, 試合は、1人の主審と1人の補助審判（必須）で運営される。
  - b, チームへの割当て審判の対応として、経験のある有資格審判員をチームに帯同させなければならない。
  - c, **審判の役割分担は抽選や順番ではなく「級、経験、意欲」等考慮の上、試合前に2人で相談して決める。**
  - d, 審判員は本大会に参加している他チームと掛け持ちで帯同審判員となることは不可とする。
  - e, 審判員は必要に応じ、審判を行う前に審判資格証(アプリ画面)を本部運営に提示し確認を受ける。
  - f, 審判員は「専用に販売されている審判服」の着用を必須とする。（黒ハーフパンツ等ではNG）  
ベンチ入り指導者が審判を行う場合、ベンチにいる際は審判服を着替えるか上着を着用する。
  - g, 審判員はワッペン・笛・トスコイン・時計・懲戒カード・記録用紙&ペンを揃えて審判を行う。  
グリーンカードは推奨する。
  - h, 審判員は割り当てられた試合の10分前の用具チェック時に指定の場所に集合（**時間厳守**）し、メンバー表を基に両チームの参加選手の背番号や氏名を確認し、用具チェックとしてシューズ・スネアテ・装飾品の安全確認の他、ユニフォームが規定内か、背番号や胸番号、エンブレムやチームロゴの表示が明確に固定されているかを確認する。これらは試合進行を円滑に進めるために運営担当が補助しても良い。
  - i, 主審は担当試合の終了後、速やかにコート本部と記録を整合の上「結果報告書」に得点と懲戒の有無を記載し署名する。両チーム代表者は結果報告書の内容に同意したらそれぞれ署名する。
  - j, 主審は「結果報告書」に記載署名した後に「審判報告書」を作成し運営担当に提出する。
  - k, 自チームの試合の前後に審判任務を割当てられ、その審判員が自チームの試合のベンチ入り指導者2名に含まれる場合、用具チェックや報告書記載時にベンチスタッフが1名になることは可とする。
  - l, 競技者に退場を命じてチームが交代要員から競技者を補充する間、主審は試合を再開させない。
  - m, メディカルスタッフのコーチングを確認(補助審判からの報告も含む)した場合、主審はそのメディカルスタッフに注意及び懲戒罰を示すことが出来るが、退場となる反則を行ったメディカルスタッフは、他にそのチームで対応ができる医療担当者が不在で、競技者の為にメディカルスタッフが必要と判断された場合のみ試合に留まることが出来る。
  - n, ベンチ入りスタッフの不正行為に対して注意及び懲戒罰を示すことが出来るが、不正を行ったスタッフが特定できない場合は、メンバー表の指導者名の横に記載の責任順位番号の最上位の指導者に注意及び懲戒罰を示す。主審は事前に最上位のスタッフをベンチのハーフウェーライン寄りに座るよう指示できる。
  - o, 補助審判は試合前主審と一緒に用具チェックとボールの確認を行い、試合中は主審の補助と両ベンチの管理(責任順位も確認)と懲戒のあった選手の記録(メンバー表の所定欄)を行い、試合後は結果報告書の内容確認と主審の署名、両チームの署名及び主審の審判報告書の記載内容の確認を行う。
  - p, 高温多湿で飲水タイムやクーリングブレイクが必要と判断した場合はその場の役員と相談の上決める。それらを実施する場合はアデショナルタイムをカウントする。
  - q, 審判員はチームや運営や観戦者などの不誠実な言動を認識した場合、その場のブロックの役員に伝え対応を相談する。その内容と結果は審判報告書や『その他報告書』に記載し報告する。
  - r, 大会の競技運営を円滑に進めるため、各試合会場に配置される11ブロック審判部員が、試合における疑義や問題ごとに対してアドバイスを伝え対応をサポートする場合がある。（審判アドバイザー制度）
- (8) 試合前の準備～試合後の確認 **メンバー表の事前申請は無し**。手書き記載可能
- a, アイシング用の氷は必ずチームで用意し、ベンチ入りの際持参する。
  - b, 第1試合の両チームで会場提供のチームの指示のもとグラウンド作り。最終試合の両チームで後片付けと整備が原則だが、会場により人員が多い方が良い場合は前後の試合のチームも手伝うなど各チームで協力する。
  - c, チーム最初の試合開始30分前（時間厳守）までに、登録用紙兼メンバー表に必要事項を記載して、指導者証やメディカル証及びweb選手証一覧と共に本部運営に提出し、運営担当者の確認を受ける。
    - ・指導者証・メディカル証は透明な首掛け式カードケースに入れて確認を受ける。
    - ・事前入力の場合、当日不参加の選手の選手名に消し線を引く。
    - ・前試合で懲戒を受けた選手の累積欄に✓を入れ、懲戒欄に内容を記載する。

- d, 試合開始10分前（時間厳守）の用具チェック時に以下を本部運営に提出する。
- ・必要事項が記載された登録用紙兼メンバー表  
後から来る選手やスタッフがなく、且つ前の試合で懲戒の無い場合は30分前に提出したままでよい。
  - ・空気圧を0.8気圧にした試合球1個
  - ・着用するユニフォームは前もって相手チームと相談の上決めておく。
- e, 競技者は用具チェック後その場から離れることは出来ない。離れた場合再度用具チェックを行う。  
指導者は用具チェック後に選手を集めない。選手との打合せは用具チェック前に済ます。
- f, 試合終了後代表者は結果報告書を確認の上署名。チームの当日の試合終了後のメンバー表は本部で回収。
- (9) 運営担当の役割 各試合常に2名の運営担当を割当てるので、選手証確認と試合管理を分担する。
- a, 対戦表運営欄で、第1試合の上側に記載されていたチームの運営担当チームは、当日そのコートで行われる全試合分の審判報告書と、結果報告書及び懲戒台帳とその他報告書を持参する。  
対戦表運営欄で最終試合下側に記載のチームは、報告書やメンバー表の回収と報告業務を担当する。
- b, 運営は2チーム1名ずつで行い1名は補助審判の後でメンバー表と結果報告書を保管し、試合中のメンバー確認と試合後の結果報告書の記載を確認し、もう1名は資料の確認と回収及び審判報告書を確認する。
- c, 運営担当は空気圧計と空気入れを持参し、審判が遅れたら用具チェックを補佐もしくは代行する。
- d, 運営担当は気温の高い日にはWBGT計を持参し会場の所定の位置に設置し、KO時とHT時の数値を結果報告書の所定欄に記載し、危険な数値になったら本部役員や審判部に試合の中断を指示するよう伝える。
- e. 運絵担当は**落雷事故の防止対策として「気象注意報」や「雷ナウキャスト」などを利用して雷に備え**、危険の条件が揃いそうなら本部役員に試合の中断を指示するよう伝える。
- f, 運営担当は各チームの第1試合30分前の登録用紙兼メンバー表の確認として以下を行う。
- ・ベンチ入りスタッフの氏名と指導者証番号と責任順番。メディカル(いる場合)証の確認。
  - ・選手証一覧を基に選手の学年・氏名・選手証番号の確認と欠席者の確認。
  - ・そのチームの当日最後の試合終了後、登録用紙兼メンバー表は回収して競技部へ渡す。
- g, 運営担当は試合中ベンチスタッフの不正行為を行った個人を特定したら、補助審判を通し主審に伝える。  
個人が特定できない場合はメンバー表の最高順位者を主審に伝える。  
メディカルスタッフが戦術指示を確認したら、補助審を通して主審に伝える。  
試合中ベンチ指導者の「その都度ただ1人のみ戦術指示」が守られていなかったり、ベンチより前に進んでいるなどの不正行為も補助審判に伝える。
- h, 試合中審判や運営本部で判断できない事由が生じた場合は、その場にいるブロック役員の判断を仰ぐかブロック委員長に連絡を取り相談する。役員不在や委員長と連絡が取れない場合は、試合は続けるが、この場合「委員長預かり試合」とするので、結果報告書への両者の署名は行わない。
- i, 運営担当は、選手・スタッフからの審判員のジャッジに関する疑問や、観客・スタッフ・審判員等の不誠実な言動などを認識した際、会場内の11ブロック役員や審判部に報告してその場で対応し、内容を「その他報告書」に記載して、委員長か競技部にメール添付にて報告する。その場で対応出来なかった場合も「その他報告書」に記載して、委員長か競技部に手渡し若しくは配信して報告することが出来る。委員長は問題について協議し内容を展開する。  
「その他報告書」は問題提起として誰でも記載し、匿名で手渡しやメール等で投稿できる。
- j. 運営担当は試合終了の都度、主審が記載した結果報告書の得点と懲戒の有無を確認し主審の署名後は両チームの代表が内容確認し署名することを確認する。
- k. 対戦表運営欄で最終試合下側の運営担当の報告業務は以下とする。 報告は速やかに。
- ①当日全ての試合結果が記載された「結果報告書」⇒必ず審判報告書と勝敗・得点・懲戒を照らし合わせて差異が無いかを確認する事。差異の有る場合は審判・両チーム代表の確認の上修正してから報告。
  - ②懲戒のあった試合の審判報告書(記載があったら重要事項報告書も)と懲戒者所属チームのメンバー表。

③記載の有った場合の（もしくは自身で記載した）「その他報告書」

上記①②③をその場で競技部に手渡しするか、pdfもしくは鮮明な画像として、試合終了後速やかにpdfか鮮明な画像として【inagi\_sss\_ichinohe@ybb.ne.jp】に配信する。現場で競技部への手渡しも可。

\* 懲戒のない審判報告書とメンバー表は配信不要

④当日回収した全ての資料はその場にいる競技部に渡す。競技部不在の場合は運営が保管し後日渡す。

(10) 懲戒罰（警告・退場）および再試合など

- a, 大会中退場または警告を**累積で2回**受けた選手、スタッフは、次の1試合は自動的に出場停止となる。但し内容によっては、東京都少年連盟の規律フェアプレー委員会に報告され追加の懲戒措置がある。警告の累積は当ブロック大会の全日程終了時点で消滅するものとする。
- b, PK戦時には、試合中に示された警告や注意は繰り越されないが、PK戦時の懲戒は累積に加える。
- c, 競技者が退場を命じられた場合、試合の再開前にその競技者のチームは、交代要員の中から競技者を補充して8人にすることが出来る。補充しなくても良いが6人未満になった時点で放棄試合となる。
- d, 試合が両方のチームの責任なき事由（天災・悪天候・暑熱対策・施設側または大会運営事由など）により開催不能または途中で中断や中止となった場合の再開や再試合、及びやむを得ない事情で再試合が出来ない場合に関しては、東京都少年サッカー連盟の『**大会の競技規定**』や『**悪天候・暑熱対策時の措置**』に従う。
- e, 試合が一方あるいは両方のチームの責任における事由（集合場所への遅刻、選手証や指導者証の不所持、人数不足、差別的言動、暴力、破壊行為、公文書偽装、会場ルール違反など）により審判員や役員によって開催不能または中止と判断された場合は下記の対応とする。
- A. 一方のチーム責任による、開催不能もしくは中止の場合
- ・そのチームの放棄試合として、不戦敗扱いとする。
  - ・不戦勝はリーグ戦の場合得点3、勝点3となり、不戦敗は得点マイナス3、勝点マイナス1。（試合途中で打ち切りとなった時点で、「3」より取得失点差が多い場合、多い方を採用する）
- B. 両方のチーム責任による、開催不能や中止の場合
- ・無効試合として原則『再試合』とする。
  - ・再試合の日時、試合会場、審判員、メンバー登録などは新たに設定する事が出来る。
  - ・但し、大会競技会本部及び当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が不可能な場合は「引き分け」とし、リーグ戦の場合両チームとも得点0、失点0、勝点0とし、トーナメント戦の場合は抽選(コイントス)する。なお、A,Bにおいて内容によっては懲罰が与えられる。
  - ・重大事由の場合は東京都少年連盟に報告され、少年連盟規律フェアプレー委員会が懲罰を決定する。
- f, 試合中ベンチやその周辺での撮影行為は静止画・動画問わず不可で、通信機器(スマホなど)の使用も会話を含め一切出来ない。それらが確認されたら注意及び懲戒罰の対象となる場合がある。他所での撮影も、試合に影響する場所（ゴール裏やベンチ裏等）からの撮影は不可で、本部が認めた場所からのみ撮影が認められる。
- g, 試合会場運営本部で判断が出来ない事象のまま終了した「ブロック委員長預かり試合」は、後日委員長主導の役員会や、東京都少年連盟との相談の上判断して両チームへ伝え了承を求める。
- h, サッカーに対し敬意の無い行為（過激な応援・ヤジ・審判へのクレーム等々）を行ったチーム（選手・指導者・スタッフや応援含む）や、会場ルールを守らない選手・コーチ・保護者・その他チーム関係の来場者は、「結果報告書」や「審判報告書」「その他報告書」などにより委員長はじめ役員に報告され、基本的にはブロック委員長からの注意喚起などで対処するが、悪質な場合は東京都少年連盟に報告され、チームに対する懲罰の判断を仰ぐこととする。
- i, 本協会諸規程及び本記載事項にない問題事例に関しては、東京都少年連盟へ報告して判断を促す。
- j, 感染症対策が発令されたら従うが、熱中症や落雷事故の対策など生命の危険度が高い対応を常に優先する。

【参考資料】

- サッカー競技規則 [https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023\\_24/](https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/)
- 8人制サッカー競技規則 <https://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>
- 熱中症ガイドライン [https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke\\_guideline.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf)